表紙解説（常三島シンボルストリート）

平成21年11月，創立60周年記念事業として常三島キャンパスにシンボルストリートが誕生しました。このシンボルストリートを提案したのは，常三島キャンパスの学生（現在10名），教職員（４名）などで構成される「徳大オープンスペースプロジェクト＝TOP」です。

「TOP」の活動が始まったのは平成19年１月にさかのぼります。常三島キャンパスでは，建物の耐震改修を中心に再整備が進む一方で「大学としての顔」や「学生が憩い，励む姿」が見えないとの指摘が多く聞かれていました。そこでオープンスペースに関する具体的なプランを，学生を交えて策定しようということになり，TOPが結成されました。

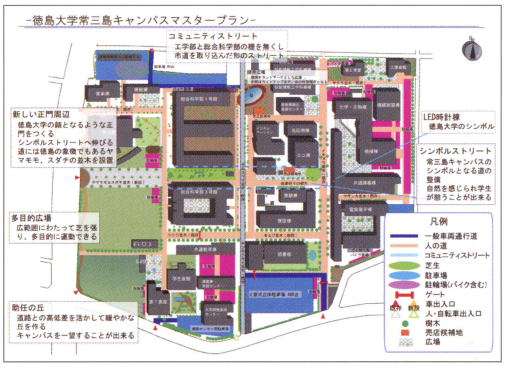
TOPでは現状把握のためのウォーキング調査，学生の意識を知るためのワークショップなどから検討を開始しました。検討の過程で，「工学部共通講義棟（K棟）の青色LED時計が多くの学生に大学のシンボルであると考えられていること」，「K棟から総合科学部のグラウンドまで一直線に抜ける空間があること」が明らかになり，最終的に提出したマスタープランにおいて，このLED時計前の通りをシンボルストリートとすることを提案しました。シンボルストリートに広場としての機能を持たせることや，カフェを新設することも提案に盛り込みました。

平成20年に，シンボルストリートの整備が創立60周年記念事業に選ばれ，その後のTOPの活動は，樹木勉強会やカフェの見学，大学祭での仮設カフェによる社会実験など，計画の具体化に向けた活動に移りました。

こうした検討を重ねて計画したシンボルストリートは，工学部側には小高い芝生の丘をつくり，丘の上にカフェと四季折々の花が咲く樹木，間伐材を使用したベンチを配置することとしました。また，総合科学部側は既存の樹木を活用し，根元にゆるやかな勾配をつけることで木陰の気持ちよい涼しげな場所としました。ストリートの中心には青色LEDを埋め込み，夜にはまた異なる印象の場所となるようにしました。工業会の会員の皆様も近くにいらした際には，是非，シンボルストリートにお立ち寄りください。（文責：TOPメンバー　板東ゆかり）

TOPメンバーの話し合い

学生ワークショップ

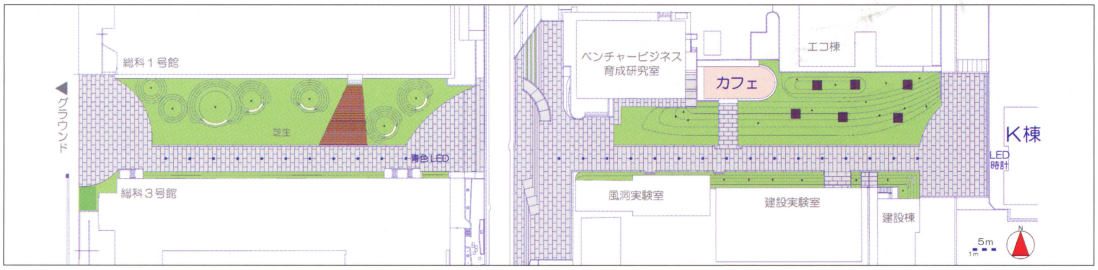


TOP提案の常三島キャンパスマスタープラン

総合科学部側

工学部側

青色LED点灯時



シンボルストリート基本設計図